

越谷市の明治の水準点『高低測量几号』

きこう

秦野 秀明

国土地理院が設置・管理する水準点は、全国の主な国道又は主要地方道に沿った約2kmごとに設置され、その種類は基準、一等、二等、三等で、全国に約22,000点存在する。この水準点により、土地の高さを精密(mm単位)に求めることができる。

明治九年(一八七六)七月二十七日、国土地理院の前身の一つである内務省地理寮により、現在とは異なる水準点の様式が布達された。設置された「高低測量几号(几号水準点)」は、現行の水準点としては機能していないが、現在も各地に残存している。

明治十二年(一八七九)六月刊行の「内務省地理局雑報第十四号六月」には、ほぼ奥州道中に沿って東京塩竈間の高低測量(水準測量)が行なわれた際の、六十四標の「高低測量几号」の位置の記載がある。

その十四標目に記載されるのが、「西方村字行人塚大相模不動道標」である。大聖寺(大相模不動尊)東門外の路傍に存在する文久二年(一八六二)建立の道標石塔がそれに該当する。加藤幸一氏の調査により、建立当時は日光道中沿いに存在していた可能性が指摘されていた。「高低測量几号」が刻まれていたと推定される道標石塔の正面下部は、地中にコンクリートで固められており、確認できない。

十五標目に記載されるのが、「大澤町字天神前管社華表」である。大沢町の香取神社の二之鳥居で、「天満宮」の扁額が掲げられた文政六年(一八一三)建立の鳥居(華表)の下部に、「高低測量几号」が残存している。こちらも日光道中沿いよりの移転を経ている。

詳しい顛末は筆者が「NPO法人越谷市郷土研究会」のホームページに発表した・「大沢香取神社の二之鳥居にある「天満宮」の扁額の謎」
・「幻の「西方村字行人塚大相模不動道標」を求めて」
を参照されたい。

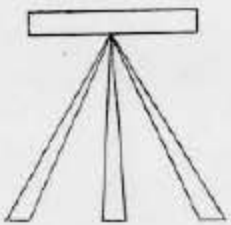
※「NPO法人越谷市郷土研究会」ホームページ

<http://www.geocities.jp/a1115b/>

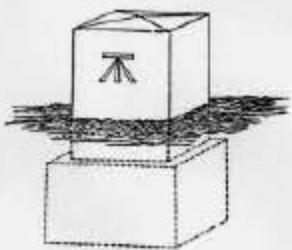
○甲第二十八號 (七月二十七日 繪原世)

營省地理寮於テ高低測量ノ際自今海面ヨリノ高低ヲ表スル記號別紙第一圖式ノ通沿路適宜ノ地ニ於テ在來ノ不朽物ニ彫刻シ又ハ第二圖石柱建設永存ノ管ニ候條爲心得此旨布達候事
(別紙)

第一圖式



第二圖式



復刻版 内閣官報局／編
『法令全書』
第九卷ノ一 明治九年、
原書房、一九七五、
四七二頁 より転載



「二万分之一地図 松戸越ヶ谷近傍第五号(第一師管地方迅速測図)」
 (明治十三年測量 同十七年製版 同二十年九月二十八日出版 同二十一年再販)

に

「高低測量凡号」の刻まれた「西方村字行人塚大相模不動道標」
 の本来の位置等を加筆



大聖寺(大相模不動尊)東門外の路傍
 「西方村字行人塚大相模不動道標」
 (東北東より望む)